

佐藤雅彦研究室ワークショップ

動きが生む認知

要 項

日時:2006年12月10日(日) 12:00集合 - 17:00
(昼食は済ませておいて下さい)

場所:山口情報芸術センター 創作・学習室

対象:高校1~3年生 最大20名 先着順

服装:特に規定はありません 持ち物:筆記用具

概 要

CMプランナーで、NHK教育テレビなどでも有名なクリエイター、そして慶応大学教授でもある佐藤雅彦さんとその研究室による、芸術と科学の融合された新しい形のワークショップ。

「動いてこそはじめて見えてくるもの」というテーマに基づき、参加者自ら認知科学を応用した映像を作ります。「新しい発想」の原理と応用について解りやすく学べる絶好のチャンスです!!

内 容

グループ分け:参加者はまず、4つのグループに分かれます。

説明:佐藤雅彦さんからワークショップ全体のオリエンテーション。

原理と手法:グループリーダーである佐藤研のメンバーから「動きと認知の原理」そして「映像制作手法」について説明があります。

制作:各グループ毎に映像制作。バイオロジカルモーションや、仮現運動といった原理に基づき、コマ撮りの手法で撮影します。

発表と共有:各グループ毎に成果を発表。

まとめ:佐藤さんがワークショップのまとめを行ないます。

講 師 profile

佐藤雅彦 / 慶応義塾大学環境情報学部「佐藤雅彦研究室」

慶應義塾大学環境情報学部特別招聘教授、東京藝術大学大学院映像研究科教授、企画会社「TOPICS」主宰。株式会社電通にて、サントリー「モルツ」、トヨタ「カローラII」、コイケヤ「ポリンキー」/「ドンタコス」などのヒットCMを手掛けた後、「だんご三兄弟」(NHK教育「おかあさんといっしょ」)が国民的ヒット。竹中平蔵元金融担当大臣との共著「経済ってそういうことだったのか会議」など著作も多い。

電通から移籍した、慶応大学SFC(湘南藤沢キャンパス)では「考え方を考える」という新しい発想の研究を行なう「佐藤雅彦研究室」が立ちあがる。研究室自体が広く社会に向け発信を続け、成果としてNHK教育番組「ピタゴラスイッチ」の制作や「任意の点P」、「動け演算」といった書籍も発行し、ADC賞といった名だたる広告賞などを受賞している。

山口情報芸術センターでは、2005年5月におこなった「時間の積層」に続き2度目のワークショップ。

主催:財団法人山口市文化振興財団 協力:慶応義塾大学環境情報学部佐藤雅彦研究室

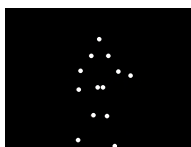
tel:083-901-2222 / e-mail:daiya@ycam.jp

山口情報芸術センター 教育普及担当:会田

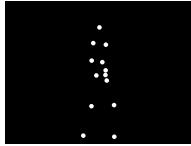
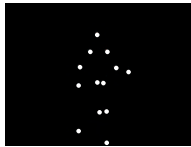


△ 前回のワークショップの様子

▼ 今回予定している内容(一部)



バイオロジカルモーション(biological motion)とは、生体的な動き(左記の例では歩行者)を、点のみで抽出したもので、その点をひとつのまとまりとして認識した瞬間に、脳のある部位だけが反応することが、脳科学の実験で確かめられています。この原理を応用するかたちで、新しい表現を探ってみようというものです。



奥行き知覚では、横方向に移動する映像の、手前にあるオブジェクトと、奥にあるオブジェクトの移動速度の違いに着目して実験を行ないます。左記のような映像において、ある特定の部分だけを小さな点で抽出します。



ただのアニメーション作成だけに留まらない、科学的な根拠を応用した新しい表現です。

連絡先